

下肢装具は、理学療法のためのひとつのツールである。固定・制御・矯正の基本機能をもつ装具は、「補装具」として身体機能障害や姿勢保持・運動能力低下を補う。その一方、装具個々の制御機能特性に応じ「正常とは異なる動き」が生じ得る点も理解する必要がある。装具はさまざまな動作練習に役立つ反面、生活領域では面倒なものという印象も拭えない。さらに理学療法士は下肢装具を動作練習に利用すると、装着関節以外の範囲にまでその影響が及ぶことにも注意を払い、利用することが重要である。

■理学療法と下肢装具(吉尾雅春論文)

脳卒中患者の下肢装具は歩行の安全性や効率を求めめるためにだけ用いるものではない。脳のシステム障害を来した脳卒中患者の覚醒や認知機能の改善にも寄与する。歩行の獲得においても装具自体の機能特性を活かすだけでなく、ヒト特有の姿勢制御機構をはじめとする科学的根拠をもった運動療法戦略の一環として装具を活用していく必要がある。その結果として生活に利用される下肢装具が増えてくる。

■歩行獲得を目的とした装具療法—長下肢装具の使用とその離脱(大畑光司論文)

急性期や重症の脳卒中後片麻痺患者に対して、歩行が自立していない状態であっても歩行運動を学習させるために、長下肢装具はなくてはならないトレーニングツールとなっている。本稿では長下肢装具の利点や役割、さらにその離脱についての考え方をまとめた。

■短下肢装具の歩行への影響(昆 恵介論文)

本稿では下肢装具の用いられる短下肢装具足継手の機能と特徴を解説し、脳卒中片麻痺者に対して必要な装具の機能についてのスクリーニング方法を概説する。特に対象者に合った装具の初期角度の設定方法についてロッカー機能に着目しながら解説を行う。

■下肢装具を用いた日常生活活動練習と理学療法(鈴木英樹, 他論文)

脳卒中後遺症者に対する下肢装具については高いエビデンスが示されている。しかし、装具が歩行以外の日常生活のなかで使用されない場合も散見される。そのような状況に対して、理学療法士は装具着用に関するメリットとデメリットをわかりやすく利用者に示すとともに、国際生活機能分類の視点から総合的な働きかけを行う必要がある。本稿では、実際の訪問リハビリテーションにおける装具装着での日常生活活動練習の実際についても紹介する。

■座談会：脳卒中治療における下肢装具の活用(永富史子, 溝部朋文, 阿部浩明, 西尾祥子)

脳卒中の理学療法に下肢装具は利用されることが多い。しかしその選択や時期、運動課題と絡めた工夫は、施設や理学療法士個々で異なるのが現状である。下肢装具を利用し理学療法士が考えること・ねらうことを、「装具と運動」をキーワードに意見交換を行い、脳卒中治療における下肢装具の利用について、その現状を話し合った。